



BEA WebLogic Integration[®]

BPM Command Line Administration Tool ユーザーズガイド

著作権

Copyright © 2003, BEA Systems, Inc. All Rights Reserved.

限定的権利条項

本ソフトウェアおよびマニュアルは、BEA Systems, Inc. 又は日本ビー・イー・エー・システムズ株式会社 (以下、「BEA」といいます) の使用許諾契約に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用することができ、同契約の条項通りにのみ使用またはコピーすることができます。同契約で明示的に許可されている以外の方法で同ソフトウェアをコピーすることは法律に違反します。このマニュアルの一部または全部を、BEA Systems, Inc. からの書面による事前の同意なしに、複写、複製、翻訳、あるいはいかなる電子媒体または機械可読形式への変換も行うことはできません。

米国政府による使用、複製もしくは開示は、BEA の使用許諾契約、および FAR 52.227-19 の「Commercial Computer Software-Restricted Rights」条項のサブパラグラフ (c)(1)、DFARS 252.227-7013 の「Rights in Technical Data and Computer Software」条項のサブパラグラフ (c)(1)(ii)、NASA FAR 補遺 16-52.227-86 の「Commercial Computer Software--Licensing」条項のサブパラグラフ (d)、もしくはそれらと同等の条項で定める制限の対象となります。

このマニュアルに記載されている内容は予告なく変更されることがあり、また BEA による責務を意味するものではありません。本ソフトウェアおよびマニュアルは「現状のまま」提供され、商品性や特定用途への適合性を始めとする (ただし、これらには限定されない) いかなる種類の保証も与えません。さらに、BEA は、正当性、正確さ、信頼性などについて、本ソフトウェアまたはマニュアルの使用もしくは使用結果に関していかなる確約、保証、あるいは表明も行いません。

商標または登録商標

BEA、Jolt、Tuxedo、および WebLogic は BEA Systems, Inc. の登録商標です。BEA Builder、BEA Campaign Manager for WebLogic、BEA eLink、BEA Manager、BEA WebLogic Commerce Server、BEA WebLogic Enterprise、BEA WebLogic Enterprise Platform、BEA WebLogic Express、BEA WebLogic Integration、BEA WebLogic Personalization Server、BEA WebLogic Platform、BEA WebLogic Portal、BEA WebLogic Server、BEA WebLogic Workshop および How Business Becomes E-Business は、BEA Systems, Inc の商標です。

その他の商標はすべて、関係各社が著作権を有します。

BPM Command Line Administration Tool ユーザーズ ガイド

パート番号	日付	ソフトウェアのバージョン
なし	2003年2月	7.0 SP2

目次

このマニュアルの内容

対象読者.....	v
e-docs Web サイト.....	v
このマニュアルの印刷方法.....	vi
関連情報.....	vi
サポート情報.....	vi
表記規則.....	vii

1. BPM Command Line Administration Tool

コマンド ライン オプション.....	1-1
コマンド ラインの構文.....	1-5

2. コマンド ラインの例

例を使用する前に.....	3-1
スクリプトの実行.....	3-1
IMPORT、EXPORT、および TEMPLATE の使用例.....	3-3
IMPORT の例.....	3-3
例 1.....	3-3
例 2.....	3-3
例 3.....	3-4
EXPORT の例.....	3-4
例.....	3-4
TEMPLATE の例.....	3-4
例 1.....	3-4
例 2.....	3-5
例 3.....	3-5
例 4.....	3-5
例 5.....	3-5
Instance Data Archiving.....	3-6
出力のアーカイブ.....	3-6
データベース スキーマ.....	3-7

アーカイブの例	3-7
例 1	3-7
例 2	3-8
例 3	3-8
例 4	3-8
例 5	3-8

A. サンプル出カドキュメント

B. ワークフロー インスタンス XSD

索引

このマニュアルの内容

このマニュアルでは、WebLogic Integration BPM Command Line Administration Tool の使用方法について説明します。

このマニュアルの内容は以下のとおりです。

- 第 1 章「BPM Command Line Administration Tool」では、コマンドラインのオプションと構文について説明します。
- 第 2 章「コマンドラインの例」では、BPM Command Line Administration Tool の使用例を示します。
- 付録 A「サンプル出力ドキュメント」では、アーカイブしたワークフロー インスタンスの例を示します。
- 付録 B「ワークフロー インスタンス XSD」では、ワークフロー インスタンススキーマの例を示します。

対象読者

このマニュアルは、デプロイしたシステムを、WebLogic Integration Studio を使用しないで管理するユーザを対象としています。

e-docs Web サイト

BEA 製品のドキュメントは、BEA Systems, Inc. の Web サイトで入手できます。BEA のホームページで [製品のドキュメント] をクリックするか、または「e-docs」という製品ドキュメント ページ (<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html>) を直接表示してください。

このマニュアルの印刷方法

Web ブラウザの [ファイル | 印刷] オプションを使用すると、Web ブラウザからこのマニュアルを一度に 1 ファイルずつ印刷できます。

このマニュアルの PDF 版は、WebLogic Integration の Web サイトで入手できます。PDF を Adobe Acrobat Reader で開くと、マニュアルの全体 (または一部分) を書籍の形式で印刷できます。PDF を表示するには、WebLogic Integration ドキュメントのホーム ページを開き、[PDF 版] ボタンをクリックして、印刷するマニュアルを選択します。

Adobe Acrobat Reader がない場合は、Adobe の Web サイト (<http://www.adobe.co.jp/>) で無料で入手できます。

関連情報

以下の WebLogic Integration ドキュメントには、この製品の使用に関連した情報が含まれています。

- *WebLogic Integration BPM ユーザーズ ガイド*
- *WebLogic Integration Studio ユーザーズ ガイド*

サポート情報

WebLogic Integration のドキュメントに関するユーザからのフィードバックは弊社にとって非常に重要です。質問や意見などがあれば、電子メールで docsupport-jp@beasys.com までお送りください。寄せられた意見については、WebLogic Integration のドキュメントを作成および改訂する BEA の専門の担当者が直に目を通します。

電子メールのメッセージには、ご使用の WebLogic Integration ドキュメントのリリース番号をお書き添えください。

本バージョンの **WebLogic Integration Worklist** について不明な点がある場合、または **Worklist** のインストールおよび動作に問題がある場合は、**BEA WebSupport** (<http://websupport.bea.com/custsupp>) を通じて **BEA カスタマ サポート** までお問い合わせください。カスタマ サポートへの連絡方法については、製品パッケージに同梱されているカスタマ サポート カードにも記載されています。

カスタマ サポートでは以下の情報をお尋ねしますので、お問い合わせの際はあらかじめご用意ください。

- お名前、電子メール アドレス、電話番号、ファクス番号
- 会社の名前と住所
- お使いの機種とコード番号
- 製品の名前とバージョン
- 問題の状況と表示されるエラー メッセージの内容

表記規則

このマニュアルでは、全体を通して以下の表記規則が使用されています。

表記法	適用
[Ctrl] + [Tab]	複数のキーを同時に押すことを示す。
斜体	強調または書籍のタイトルを示す。

表記法	適用
等幅テキスト	<p>コード サンプル、コマンドとそのオプション、データ構造体とそのメンバー、データ型、ディレクトリ、およびファイル名とその拡張子を示す。等幅テキストはキーボードから入力するテキストも示す。</p> <p><i>例</i></p> <pre>#include <iostream.h> void main () the pointer psz chmod u+w * \tux\data\ap .doc tux.doc BITMAP float</pre>
斜体の等幅テキスト	<p>コード内の変数を示す。</p> <p><i>例</i></p> <pre>String expr</pre>
すべて大文字のテキスト	<p>デバイス名、環境変数、および論理演算子を示す。</p> <p><i>例</i></p> <pre>LPT1 SIGNON OR</pre>
{ }	<p>構文の中で複数の選択肢を示す。実際には、この括弧は入力しない。</p>
[]	<p>構文の中で任意指定の項目を示す。実際には、この括弧は入力しない。</p> <p><i>例</i></p> <pre>buildobjclient [-v] [-o name] [-f file-list]...[-l file-list]...</pre>
	<p>構文の中で相互に排他的な選択肢を区切る。実際には、この記号は入力しない。</p>

表記法	適用
...	<p>コマンドラインで以下のいずれかを示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 引数を複数回繰り返すことができる。 ■ 任意指定の引数が省略されている。 ■ パラメータや値などの情報を追加入力できる。 <p>実際には、この省略記号は入力しない。</p> <p><i>例</i></p> <pre>buildobjclient [-v] [-o name] [-f file-list]...[-l file-list]...</pre>
. . .	<p>コード サンプルまたは構文で項目が省略されていることを示す。</p> <p>実際には、この省略記号は入力しない。</p>



1 BPM Command Line Administration Tool

BEA BPM Command Line Administration Tool では、WebLogic Integration Studio を使用することなく、デプロイしたシステムを管理できます。次の機能があります。

- テンプレート定義のアクティブ化または非アクティブ化
- テンプレートの削除
- テンプレート、テンプレート定義、ビジネス オペレーション定義、リポジットリ エンティティ、ユーザ、ロール、オーガニゼーションのインポートとエクスポート

さらに、BPM Command Line Administration Tool には次のような新しい機能があります。Instance Data Archiving を使用すると、完了したワークフロー インスタンスをデータベースから削除し、すべてのインスタンス データを XML フォーマットでファイルに書き込むことができます。Instance Data Archiving の詳細については、2-6 ページの「Instance Data Archiving」を参照してください。

この章の内容は以下のとおりです。

- コマンドラインオプション
- コマンドラインの構文

コマンドラインオプション

BPM Command Line Administration Tool は、表 1-1 に示すコマンドライン オプションで構成されています。

注意： コマンドライン オプションを実行するには、WebLogic Integration サーバが実行中でなければなりません。

表 1-1 コマンド ライン オプション

オプション	説明
グローバル オプション	
これらのオプションは必須。これらのオプションのいずれかを省略すると、入力を要求される。	
<code>-user username</code>	サーバに接続するためのユーザ名。
<code>-pwd password</code>	ユーザ名に対するパスワード。
<code>-url t3://url</code>	サーバの t3 URL。
TEMPLATE のオプション	
これらのオプションは、テンプレートを管理するときに使用する。	
次の必須オプションのうち、いずれか 1 つだけを使用する。	
<code>-name name</code>	処理するテンプレートの名前。
<code>-defId</code>	アクティブ化、非アクティブ化、または削除する特定のテンプレート定義 ID を指定する。
次の省略可能オプションのうち、いずれか 1 つだけを使用する。	
<code>-activate</code>	テンプレート定義をアクティブにする。
<code>-deactivate</code>	テンプレート定義を非アクティブにする。
<code>-delete</code>	テンプレートとそのすべてのテンプレート定義を削除する。
<code>-list</code>	テンプレートのテンプレート定義をリストする。
IMPORT のオプション	
これらのオプションは、ワークフロー エンティティをインポートするときに使用する。	
次の必須オプションのうち、いずれか 1 つを使用する。	
<code>-file filename</code>	インポートするパッケージ jar ファイルの名前。

オプション	説明
<code>-dir directoryname</code>	インポートするパッケージ <code>jar</code> ファイルが入っているディレクトリの名前。
その他のオプション:	
<code>-org orgid</code>	テンプレートのインポート先オーガニゼーションの名前 (必須)。
<code>-activate</code>	インポートしたすべてのテンプレート定義をアクティブにする (省略可能)。
<code>-replace</code>	すでにインポートされている既存のエンティティを置き換える (省略可能)。
<code>-pkgPwd password</code>	インポートしたパッケージのロックを解除するためのパスワード (省略可能)。
EXPORT のオプション	
これらのオプションは、ワークフロー エンティティをエクスポートするときに使用する。	
<code>-file filename</code>	エクスポート するパッケージ <code>jar</code> ファイルの名前 (必須)。
<code>-org orgid</code>	テンプレートをエクスポートするオーガニゼーションの名前 (必須)。
<code>-pkgPwd password</code>	エクスポート パッケージをロックするために使用するパスワード (省略可能)。
INSTANCE のオプション	
これらのオプションは、完了したインスタンス データの削除およびアーカイブに使用する。	
注意: 指定した時間内に完了したインスタンスだけの処理に制限する場合は、 <code>-from</code> オプションと <code>-to</code> オプションを使用する。制限しない場合は、その他の入力基準を満たす、すべての完了済みのインスタンスが処理される。	
<code>-delete</code>	インスタンス データを削除する (単独で使用するか、 <code>-archive</code> オプションと組み合わせて使用できる)。

オプション	説明
<code>-archive directoryname</code>	指定したディレクトリにデータをアーカイブする（単独で使用するか、 <code>-delete</code> オプションと組み合わせて使用できる）。
<code>-org orgid</code>	処理するインスタンスのオーガニゼーション名（省略可能。省略した場合は、すべてのテンプレートが処理される）。
<code>-template name</code>	テンプレートの名前（省略可能。省略した場合は、すべてのテンプレートが処理される）。
<code>-relFrom hours</code>	現在より前の時間に完了したインスタンスを処理する。時間は 10 進数で表す。たとえば、最近 6 時間 30 分の間 に完了したインスタンスを処理するには、 <code>-relFrom 6.5</code> を使用する（省略可能）。 注意： <code>relFrom</code> と <code>absFrom</code> は同時に使用できない。
<code>-relTo hours</code>	現在より前の時間に完了したインスタンスを処理から除外する。時間は 10 進数で表す。たとえば、最近 4 時間 に完了したインスタンスを除くすべてのインスタンスを処理するには、 <code>-relTo 4.0</code> を使用する（省略可能）。 注意： <code>relTo</code> と <code>absTo</code> は同時に使用できない。
<code>-absFrom</code>	絶対値で指定した日時より後に完了したすべてのインスタンスを処理する。書式は <code>yyyy-MM-dd HH:mm:ss</code> を使用する。たとえば <code>2002-11-01 15:30:00</code> （省略可能）。
<code>-absTo</code>	絶対値で指定した日時より前に完了したすべてのインスタンスを処理する。書式は <code>yyyy-MM-dd HH:mm:ss</code> を使用する。たとえば <code>2002-11-01 15:30:00</code> （省略可能）。
<code>-references</code>	<code>OrganizationInfo</code> 、 <code>UserInfo</code> 、 <code>RoleInfo</code> 、 <code>TemplateDefinitionInfo</code> のようにインスタンスデータから参照されているエンティティをアーカイブする（省略可能）。

コマンド ラインの構文

コマンド ライン オプションを使用するための構文を表 1-2 に示します。

注意: コマンド ライン オプションの書式では大文字と小文字を区別しません。

表 1-2 コマンド ラインの構文

オプション	構文
IMPORT	<pre>bpmadmin IMPORT [-user user] [-pwd pwd] [-url url] {-file file -dir dir} -org org [-pkgPwd pwd] [-activate] [-replace]</pre>
EXPORT	<pre>bpmadmin EXPORT [-user user] [-pwd pwd] [-url url] -file file -org org [-pkgPwd pwd]</pre>
TEMPLATE	<pre>bpmadmin TEMPLATE [-user user] [-pwd pwd] [-url url] {Name DefId}</pre> <p>各項目の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Name = -name name {-activate -deactivate -delete -list} ■ DefId = -defId id {-activate -deactivate -delete}
INSTANCE	<pre>bpmadmin INSTANCE [-user user] [-pwd pwd] [-url url] {-delete Archive -delete Archive} Options</pre> <p>各項目の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Archive = -archive directory [-references] ■ Options = [-org org] [-template name] [-relFrom hours -relTp hours -absFrom date time -absTo date time]

2 コマンド ラインの例

この章では、BPM Command Line Administration Tool の使用例を示します。この章の内容は以下のとおりです。

- 例を使用する前に
- スクリプトの実行
- IMPORT、EXPORT、および TEMPLATE の使用例

例を使用する前に

例を使用するには、最初に次の作業を行う必要があります。

- WebLogic Integration サーバを起動する。WebLogic Integration の起動方法については、『WebLogic Integration の起動、停止およびカスタマイズ』を参照してください。
- bpmadmin スクリプトを実行する。
- インポート、エクスポート、削除などに使用できるテンプレートとパッケージ .jar ファイルを用意する。テンプレートとパッケージの作成方法の詳細については、『WebLogic Integration BPM ユーザーズ ガイド』を参照してください。

スクリプトの実行

例を使用するには、その前に bpmadmin スクリプトを実行します。

注意： 例を使用するには、WebLogic Integration Server が実行中でなければなりません。

2 コマンド ラインの例

bpmadmin スクリプトを実行するには、以下の手順を実行します。

1. Windows システムでは、コマンド ウィンドウを開きます。
2. Windows および UNIX の両方で、以下のディレクトリに移動します。

```
BEA_HOME\weblogic700\integration\bin
```

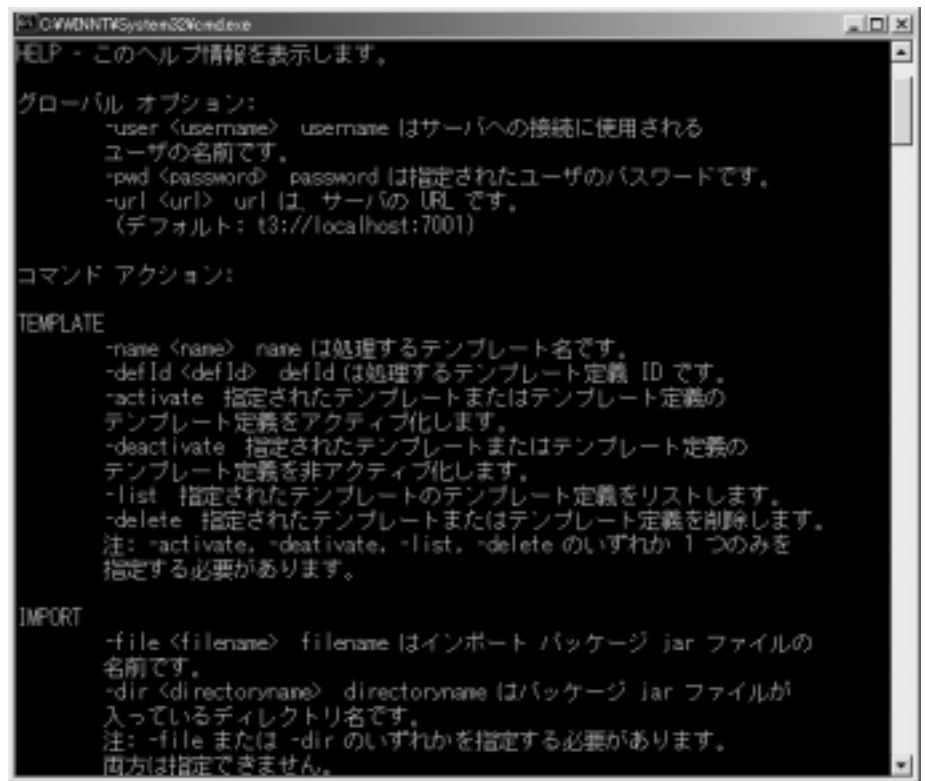
この `BEA_HOME` は、WebLogic Platform のホーム ディレクトリです。

3. 次のように入力して、bpmadmin スクリプトを実行します。

```
bpmadmin.cmd
```

bpmadmin スクリプトが終了すると、図 2-1 に示すように、使用可能なオプションがウィンドウに表示されます。

図 2-1 コマンド ラインのヘルプ



```
ト: C:\WINDOWS\System32\cmd.exe
HELP - このヘルプ情報を表示します。

グローバル オプション:
-user <username> username はサーバへの接続に使用される
ユーザの名前です。
-pwd <password> password は指定されたユーザのパスワードです。
-url <url> url は、サーバの URL です。
(デフォルト: t3://localhost:7001)

コマンド アクション:

TEMPLATE
-name <name> name は処理するテンプレート名です。
-defid <defid> defid は処理するテンプレート定義 ID です。
-activate 指定されたテンプレートまたはテンプレート定義の
テンプレート定義をアクティブ化します。
-deactivate 指定されたテンプレートまたはテンプレート定義の
テンプレート定義を非アクティブ化します。
-list 指定されたテンプレートのテンプレート定義をリストします。
-delete 指定されたテンプレートまたはテンプレート定義を削除します。
注: -activate, -deactivate, -list, -delete のいずれか 1 つのみを
指定する必要があります。

IMPORT
-file <filename> filename はインポート パッケージ jar ファイルの
名前です。
-dir <dirname> dirname はパッケージ jar ファイルが
入っているディレクトリ名です。
注: -file または -dir のいずれかを指定する必要があります。
両方は指定できません。
```

注意： このウィンドウでは、「bpadmin help」と入力して、いつでもヘルプを表示できます。

IMPORT、EXPORT、および TEMPLATE の使用例

例では次の属性を使用しています。

- ユーザの名前は joe
- パスワードは password
- サーバのデフォルトの URL は t3://localhost:7001

IMPORT の例

コマンドラインでは、個別のエントリではなくオーガネゼーションのレベルでインポートを行います。以下の例はパッケージ jar ファイルのインポート方法を示しています。

例 1

パッケージ jar ファイルを ORG1 にインポートし、デフォルトの URL (t3://localhost:7001) にあるサーバに対してテンプレート定義をアクティブにするには、次のコマンドラインを使用します。

```
bpadmin IMPORT -user joe -pwd password -url t3://host:port -file test.jar -org ORG1 -activate
```

例 2

複数のパッケージ jar ファイルを 1つのディレクトリにインポートするには、次のコマンドラインを使用します。

2 コマンド ラインの例

```
bpmadmin IMPORT -user joe -pwd password -url t3://host:port -dir  
c:\temp -org ORG1
```

例 3

パッケージ `jar` ファイルをインポートし、既存のエンティティを置き換えるには、次のコマンド ラインを使用します。

```
bpmadmin IMPORT -user joe -pwd password -url t3://host:port -file  
test.jar -org ORG1 -replace
```

EXPORT の例

コマンド ラインでは、個別のエンティティではなくオーガニゼーションのレベルでエクスポートを行います。この例はパッケージ `jar` ファイルのエクスポート方法を示しています。

例

特定のオーガニゼーションに関連付けられたエンティティをエクスポートするには、次のコマンド ラインを使用します。

```
bpmadmin EXPORT -user joe -pwd password -url t3://host:port -file  
org1.jar -org ORG1
```

TEMPLATE の例

以下の例は、テンプレートの削除、アクティブ化、非アクティブ化、およびリストの方法を示しています。

注意： 一度に1つのテンプレートだけを指定できます。

例 1

テンプレートとその関連データすべてを削除するには、次のコマンド ラインを使用します。

```
bpmadmin TEMPLATE -user joe -pwd password -url t3://host:port  
-name TestTemplate -delete
```

例 2

テンプレートのすべてのテンプレート定義をアクティブにするには、次のコマンドラインを使用します。

```
bpmadmin TEMPLATE -user joe -pwd password -url t3://host:port  
-name "Test Template" -activate
```

例 3

テンプレートのすべてのテンプレート定義を非アクティブにするには、次のコマンドラインを使用します。

```
bpmadmin TEMPLATE -user joe -pwd password -url t3://host:port  
-name TestTemplate -deactivate
```

例 4

テンプレートのすべてのテンプレート定義をリストするには、次のコマンドラインを使用します。

```
bpmadmin TEMPLATE -user joe -pwd password -url t3://host:port  
-name TestTemplate -list
```

例 5

テンプレートの特定のテンプレート定義をアクティブにするには、次のコマンドラインを使用します。

```
bpmadmin TEMPLATE -user joe -pwd password -url t3://host:port  
-defId 12003 -activate
```

Instance Data Archiving

Command Line Administration Tool により、BEA WebLogic Integration にワークフロー インスタンス データをアーカイブする機能が追加されます。この新しい機能を使用すると、完了したワークフロー インスタンスから累積した大量のデータの管理にかかわる問題が解決します。Command Line Administration Tool を使用して、インスタンス データをデータベースから削除したり、一連の XML ドキュメントとしてアーカイブすることができます。

出力のアーカイブ

アーカイブ処理によって生成される XML ドキュメントには、各インスタンスに関連付けられたすべてのデータが含まれています。出力 XML はワークフロー インスタンスのスキーマに従っています。詳細については、付録 B「ワークフロー インスタンス XSD」を参照してください。

XML インスタンス ドキュメントには、次の例に示すように、テンプレート名とインスタンス ID (システムによって割り当てられる) を組み合わせたタイトルが付きます。

```
PurchaseOrderProcessing-11234.xml
```

XML ドキュメントには、基本インスタンス データ、タスク情報、および変数値を含む InstanceInfo クラスのすべての情報が入っています。

XML 変数の場合、次の例に示すように、テンプレート名、インスタンス ID、および変数名を使用した名前の付いた別のファイルに値が格納されます。

```
PurchaseOrderProcessing-11234-PO.xml
```

Instance Data Archiving には、`-references` パラメータを使用して参照先の外部データ (ユーザ、ロール、オーガニゼーション、ビジネス カレンダーなど) をエクスポートするオプションもあります。これらのドキュメントには、表 2-1 に示すようなタイトルが付きます。

表 2-1 アーカイブの名前の付け方の例

ディレクトリ	サンプルのタイトル
organization	CDExpress.xml
templatedefinitions	PurchaseOrderProcessing-9.xml
templates	PurchaseOrderProcessing.xml
users	joe.xml
roles	shipping.xml

注意： XML インスタンスドキュメントの例を見るには、付録 A 「サンプル出力ドキュメント」を参照してください。

データベース スキーマ

WebLogic Integration データベース スキーマの詳細については、『*BPM クライアント アプリケーションプログラミング ガイド*』の「データベース スキーマ」を参照してください。

アーカイブの例

以下の例は、Instance Data Archiving の機能と構文を示しています。

例 1

過去 24 時間に完了したすべてのインスタンスを削除するには、次のコマンド ラインを使用します。

```
bpmadmin INSTANCE -user joe -pwd password -url t3://host:port
-delete -relFrom 24
```

例 2

特定のオーガニゼーションに関連付けられた特定のテンプレートの完了したインスタンスをすべて削除するには、次のコマンド ラインを使用します。

```
bpmadmin INSTANCE -user joe -pwd password -url t3://host:port  
-delete -template TestTemplate -org ORG1
```

例 3

特定のテンプレートの完了したすべてのインスタンスをアーカイブするには、次のコマンド ラインを使用します。

```
bpmadmin INSTANCE -user joe -pwd password -url t3://host:port  
-archive c:\archivedir -template TestTemplate
```

例 4

最近 24 時間に完了したインスタンスをアーカイブして削除する場合に、最近 12 時間に完了したインスタンスを除外し、参照先エンティティを含めるには、次のコマンド ラインを使用します。

```
bpmadmin INSTANCE -user joe -pwd password -url t3://host:port  
-delete -archive c:\archivedir -relFrom 24 -relTo 12 -references
```

例 5

2002 年 10 月 1 日から 2002 年 10 月 15 日までの間に完了したすべてのインスタンスをアーカイブするには、次のコマンド ラインを使用します。

```
bpmadmin -user joe -pwd password -url t3://host:port -archive  
c:\archivedir -absFrom 2002-10-01 00:00:00 -absTo 2002-10-15  
23:59:59
```

A サンプル出カドキュメント

この付録では XML インスタンスドキュメントの例を示します。

コード リスト A-1 アーカイブ サンプルドキュメント

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<workflowinstance xmlns:xi="http://www.w3.org/2001/XInclude"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:noNamespaceSchemaLocation="workflowinstance.xsd">
  <instanceid>2008</instanceid>
  <templateid>26</templateid>
  <templatename>Order Fulfillment</templatename>
  <templatedefinitionid>26</templatedefinitionid>
  <orgid>CDExpress</orgid>
  <initiator>admin</initiator>
  <parent>
    <instanceid>2006</instanceid>
    <templatedefinitionid>27</templatedefinitionid>
  </parent>
  <started>2002-12-18T16:32:09.0</started>
  <completed>2002-12-18T16:37:51.0</completed>
  <idstring>Order 2</idstring>
  <comment />
  <state>ACTIVE</state>
  <tasks>
    <task>
      <taskid>2</taskid>
      <taskname>Ship Order</taskname>
      <started>2002-12-18T16:32:09.0</started>
      <completed>2002-12-18T16:37:51.0</completed>
      <due xsi:nil="true" />
      <assignee isRole="true">Shipping</assignee>
      <comment>Ship to John Doe 3126 Blue Street Anytown CA 96822</comment>
      <status>COMPLETE</status>
      <priority>MEDIUM</priority>
      <permissions>
        <markdone>>false</markdone>
        <reexecute>>false</reexecute>
        <unmarkdone>>false</unmarkdone>
        <modifiable>>false</modifiable>
        <reassignable>>false</reassignable>
      </permissions>
    </task>
  </tasks>
</workflowinstance>
```

A サンプル出カドキュメント

```
</permissions>
</task>
<task>
  <taskid>963511775400</taskid>
  <taskname>Generate Invoice</taskname>
  <started>2002-12-18T16:32:09.0</started>
  <completed>2002-12-18T16:35:48.0</completed>
  <due xsi:nil="true" />
  <assignee isRole="true">Accounting</assignee>
  <comment />
  <status>COMPLETE</status>
  <priority>MEDIUM</priority>
  <permissions>
    <markdone>false</markdone>
    <reexecute>false</reexecute>
    <unmarkdone>false</unmarkdone>
    <modifiable>false</modifiable>
    <reassignable>false</reassignable>
  </permissions>
</task>
</tasks>
<variables>
  <variable>
    <name>CustomerAddress</name>
    <type>string</type>
    <value>3126 Blue Street Anytown CA 96822</value>
  </variable>
  <variable>
    <name>CustomerName</name>
    <type>string</type>
    <value>John Doe</value>
  </variable>
  <variable>
    <name>ItemID</name>
    <type>integer</type>
    <value>236</value>
  </variable>
  <variable>
    <name>ItemQuantity</name>
    <type>integer</type>

    <value>2</value>
  </variable>
  <variable>
    <name>OrderBeanReference</name>
    <type>session</type>
    <value>wlpi.tour.POBean:t3://192.168.11.112:7001#null</value>
  </variable>
```

```
<variable>
  <name>OrderID</name>
  <type>integer</type>
  <value>2</value>
</variable>
<variable>
  <name>OrderTotalPrice</name>
  <type>double</type>
  <value>364.35</value>
</variable>
<variable>
  <name>ShipToState</name>
  <type>string</type>
  <value>MA</value>
</variable>
</variables>
</workflowinstance>
```

B ワークフロー インスタンス XSD

この付録では workflowinstance.xsd を示します。この XSD は WebLogic Integration 7.0 SP2 に付属しています。

コード リスト B-1 workflowinstance.xsd

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
  <xsd:schema xmlns:xi="http://www.w3.org/2001/XInclude"
    xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema" elementFormDefault="qualified">
    <xsd:import namespace="http://www.w3.org/2001/XInclude"
      schemaLocation="xinclude.xsd"/>
    <xsd:element name="assignee">
      <xsd:complexType>
        <xsd:simpleContent>
          <xsd:extension base="xsd:string">
            <xsd:attribute name="isRole" type="xsd:boolean"
              use="required"/>
          </xsd:extension>
        </xsd:simpleContent>
      </xsd:complexType>
    </xsd:element>
    <xsd:element name="comment" type="xsd:string"/>
    <xsd:element name="completed" type="xsd:dateTime" nillable="true"/>
    <xsd:element name="due" type="xsd:dateTime" nillable="true"/>
    <xsd:element name="idstring" type="xsd:string"/>
    <xsd:element name="initiator" type="xsd:string"/>
    <xsd:element name="instanceid" type="xsd:long"/>
    <xsd:element name="markdone" type="xsd:boolean"/>
    <xsd:element name="modifiable" type="xsd:boolean"/>
    <xsd:element name="name" type="xsd:string"/>
    <xsd:element name="orgid" type="xsd:string"/>
    <xsd:element name="permissions">
      <xsd:complexType>
        <xsd:sequence>
          <xsd:element ref="markdone"/>
          <xsd:element ref="reexecute"/>
          <xsd:element ref="unmarkdone"/>
          <xsd:element ref="modifiable"/>
          <xsd:element ref="reassignable"/>
        </xsd:sequence>
      </xsd:complexType>
    </xsd:element>
  </xsd:schema>
```

```
</xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="priority">
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="xsd:string">
      <xsd:enumeration value="LOW" />
      <xsd:enumeration value="MEDIUM" />
      <xsd:enumeration value="HIGH" />
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="reassignable" type="xsd:boolean"/>
<xsd:element name="reexecute" type="xsd:boolean"/>
<xsd:element name="started" type="xsd:dateTime" nillable="true"/>
<xsd:element name="state">
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="xsd:string">
      <xsd:enumeration value="SUSPENDED" />
      <xsd:enumeration value="ACTIVE" />
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="status" type="xsd:string"/>
<xsd:element name="task">
  <xsd:complexType>
    <xsd:sequence>
      <xsd:element ref="taskid"/>
      <xsd:element ref="taskname"/>
      <xsd:element ref="started"/>
      <xsd:element ref="completed"/>
      <xsd:element ref="due"/>
      <xsd:element ref="assignee"/>
      <xsd:element ref="comment"/>
      <xsd:element ref="status"/>
      <xsd:element ref="priority"/>
      <xsd:element ref="permissions"/>
    </xsd:sequence>
  </xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="taskid" type="xsd:long"/>
<xsd:element name="taskname" type="xsd:string"/>

<xsd:element name="tasks">
  <xsd:complexType>
    <xsd:sequence>
      <xsd:element ref="task" minOccurs="0" maxOccurs="unbounded"/>
    </xsd:sequence>
  </xsd:complexType>
```

```

</xsd:element>
<xsd:element name="templatedefinitionid" type="xsd:long"/>
<xsd:element name="templateid" type="xsd:long"/>
<xsd:element name="templatename" type="xsd:string"/>
<xsd:element name="type">
  <xsd:simpleType>
    <xsd:restriction base="xsd:string">
      <xsd:enumeration value="boolean"/>
      <xsd:enumeration value="date"/>
      <xsd:enumeration value="double"/>
      <xsd:enumeration value="integer"/>
      <xsd:enumeration value="string"/>
      <xsd:enumeration value="xml"/>
      <xsd:enumeration value="object"/>
      <xsd:enumeration value="session"/>
      <xsd:enumeration value="entity"/>
    </xsd:restriction>
  </xsd:simpleType>
</xsd:element>
<xsd:element name="unmarkdone" type="xsd:boolean"/>
<xsd:element name="value">
  <xsd:complexType mixed="true">
    <xsd:choice minOccurs="0" maxOccurs="unbounded">
      <xsd:element ref="xi:include"/>
    </xsd:choice>
  </xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="variable">
  <xsd:complexType>
    <xsd:sequence>
      <xsd:element ref="name"/>
      <xsd:element ref="type"/>
      <xsd:element ref="value"/>
    </xsd:sequence>
  </xsd:complexType>
</xsd:element>
<xsd:element name="variables">
  <xsd:complexType>
    <xsd:sequence>
      <xsd:element ref="variable" minOccurs="0" maxOccurs="unbounded"/>
    </xsd:sequence>
  </xsd:complexType>
</xsd:element>

<xsd:element name="workflowinstance">
  <xsd:complexType>
    <xsd:sequence>
      <xsd:element ref="instanceid"/>

```

B ワークフロー インスタンス XSD

```
<xsd:element ref="templateid" />
<xsd:element ref="templatename" />
<xsd:element ref="templatedefinitionid" />
<xsd:element ref="orgid" />
<xsd:element ref="initiator" />
<xsd:element ref="started" />
<xsd:element ref="completed" />
<xsd:element ref="idstring" />
<xsd:element ref="comment" />
<xsd:element ref="state" />
<xsd:element ref="tasks" />
<xsd:element ref="variables" />
</xsd:sequence>
</xsd:complexType>
</xsd:element>
</xsd:schema>
```

索引

B

bpadmin スクリプト 3-1

E

e-docs Web サイト v

EXPORT のオプション 1-3

EXPORT の例 3-4

I

IMPORT のオプション 1-2

IMPORT の例 3-3

Instance Data Archiving、説明 1-1

Instance Data Archiving について 1-1

Instance Data Archiving の例 3-6

INSTANCE のオプション 1-3

T

TEMPLATE のオプション 1-2

TEMPLATE の例 3-4

W

workflowinstance.xsd B-1

X

XML インスタンスドキュメント 3-7, A-1

XML インスタンスドキュメントの命名規則 3-6

あ

アーカイブの例 3-7

い

印刷、製品のマニュアル vi

インスタンスドキュメント 3-7, A-1

インスタンスドキュメント、命名規則 3-6

お

オプション

EXPORT 1-3

IMPORT 1-2

INSTANCE 1-3

TEMPLATE 1-2

グローバル 1-2

か

カスタマ サポート情報 vi

関連情報 vi

く

グローバル オプション 1-2

こ

構文 1-5

コマンド ラインの構文 1-5

コマンド ラインのヘルプ 3-2

た

対象読者 v

て

テクニカル サポート vii

データベース スキーマ 3-7

ひ

表記規則 vii

め

命名規則、インスタンスドキュメント 3-6

れ

例

BPM Command Line Administration

Tool の使用 3-1

EXPORT 3-4

IMPORT 3-3

Instance Data Archiving 3-6

TEMPLATE 3-4

例を使用するための前提条件 3-1

わ

ワークフロー インスタンスの XSD B-1